

# 福澤研究センター講座 2017年度 『関西の福澤山脈 --財界で活躍した慶應義塾出身者--』（全5回）

関西の皆様にとって、慶應義塾は名前は知っていてもなじみの薄い大学かもしれません。しかし、実際には関西を活躍の場とした慶應義塾出身者、あるいは関西出身で慶應義塾に学び、その後各方面で活躍した人物は数多くいます。本講座では、特にその活躍が顕著にみられた「財界」という場にスポットを当て、「福澤山脈」と呼ばれる福澤諭吉の門下生たちと関西との関係を考察していきます。

- ◇会場：慶應大阪シティキャンパス
- ◇開催時間：14:00～16:00（開場 13:00）
- ◇事前申込制（各回毎の個別お申込可能、当日参加可能）

## ▲▽▲ 各講演の趣旨とねらい ▲▽▲

■第1回 10/28(土) 井奥 成彦 慶應義塾大学文学部教授、福澤研究センター所長  
『岩下清周 — 小林一三を支えた男 — 』

岩下清周は明治・大正期の実業家で、北浜銀行の創立者です。一般的にはあまり知られていませんが、今風に言えば、当時のベンチャービジネスを積極的に支援（融資）した人で、小林一三の諸事業は彼の支援なしにはなしえなかったことでしょう。彼は慶應義塾は中退でしたが、「慶應らしさ」を備えた人ではありました。彼の思想、理念や実際の事業のどういったところに「慶應らしさ」は表れているのでしょうか？ 講座をお楽しみに。

■第2回 11/18(土) 平野 隆 慶應義塾大学商学部教授  
『小林一三 — 大衆消費社会の創造者 — 』

阪急電鉄・宝塚歌劇団・阪急百貨店などを創業した小林一三（1873～1957年）は、多士済々の「福澤山脈」の中でもとりわけユニークな経営者であった。この講座では、小林の多岐にわたる企業者活動を概観し、彼が現代に続く中流階級のライフスタイルと大衆消費社会を「創造」したこと、私企業の利益のためだけでなく「公益としてのビジネス」を追求したこと、そしてそうした活動の背後に福澤諭吉の思想の影響があったことを論じていく。

■第3回 12/23(土) 小室 正紀 慶應義塾大学名誉教授  
『掘り起こしてみたい関西企業家 — 岩おこし中興の人 小林林之助など — 』

この講座シリーズでは、岩下清周、小林一三、外山脩造、山邊丈夫、門野幾之進が取り上げられている。彼等はいずれも、日本の資本主義を先導した経済人として注目に値することは言うまでもない。ただし注意しなければならないのは、彼等は財閥系の資本やコネクションを何らかの点で背景としていた点である。それは、福澤諭吉が理想とした真に独立の経済人とは、あるいはやや性格を異にする部分があったかもしれない。

そこで、今回の講座では、大企業の経営者とはならなかったものの、ほとんど自力で企業を立ち上げたり家業を革新した京阪の経営者を取り上げて、福澤諭吉の影響について考えてみたい。現段階で取り上げてようと考えている企業家は、綿花商西松喬、ビルブローカー奥山春枝、三ツ矢サイダーの中谷整治、岩おこし商小林林之助、広告代理店京華社を興した後藤文蔵などである。

■第4回 2018/ 1/13(土) 宮本 又郎 大阪大学名誉教授

『 外山脩造と山邊丈夫 — 士魂洋才、大阪に文明開化をもたらす — 』

外山脩造は、1842年越後国栃尾（現新潟県長岡市栃尾）に生まれ、慶應義塾などで学んだのち、大阪の千草屋両替店がつくった第三十二国立銀行の総監役となりました。そこでの手腕が認められて日銀の初代大阪支店長となり、その後は商業興信所、大阪麦酒（現アサヒビール）、大阪倉庫、浪速銀行、大阪貯蓄銀行、そして阪神電鉄、大阪電灯（現関西電力）など多くの大阪の企業に関係した財界リーダーです。彼の企業家としての特性は、いち早く欧米の制度や技術導入の必要性を訴えたことにあります。

一方、山邊丈夫は1851年石見国津和野（現島根県津和野市）に生まれ、東京の西周塾や、大阪の慶應義塾分舎で学んだのち、ロンドンに留学しますが、留学中寄せられた渋沢栄一の要請に応じて、マンチェスターで当時最新の紡績技術を学び、帰国後、大阪紡績（現東洋紡）を立ち上げ、見事に成功、大阪が「東洋のマンチェスター」として発展する基礎をつくったのみならず、日本の産業革命を導きました。

このように、外山脩造と山邊丈夫はともに武士の出身でしたが、いち早く西洋の文明を消化し、大阪に文明開化をもたらした人物であったといえます。そしてそれは間違いなく、福澤諭吉の合理主義、機能主義的思考とつながるものであったといえるでしょう。

■第5回 2018/ 2/ 3(土) 三科 仁伸 慶應義塾大学文学部非常勤講師

『 門野幾之進 — 社中を薫陶育成す — 』

鳥羽の三賢人の一人に数えられた門野幾之進は、慶應義塾の教員として学事改革に奔走した後、実業界に転じると、慶應義塾出身者と共同して、千代田生命保険相互会社を設立した。また、豊国銀行の監査役として貸出審査体制の確立に尽力し、玉川電気鉄道などといった慶應義塾出身の企業家によって経営された企業を、資金面から後援することで、教育界や実業界で常に社中を薫陶育成した人物といえる。本講義では、最新の日本経済史の研究成果を取り入れながら、「福澤山脈」と称される慶應義塾出身の学閥企業家ネットワークを支えた彼の実像に迫っていく。